

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、常に理念を共有し意識し、話し合いながら日々取り組んでいる。	法人の基本理念を受けてホームで話し合いをして介護目標(楽しく生き生き・地域との交流を楽しむ・一人ひとりの生活リズムを大切になどの文言が入っている)をつくりホーム内に掲示している。しかし介護目標に沿ったケアが行われているかの振り返りは不十分である。	理念や介護目標を唱和するなりの意識付けを全職員が行い、毎日のケアが理念や目標に沿っているかどうか振り返り話し合う場を作って欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	慰問や行事がある時に、近所の方をお誘いしたり。散歩の時に声をかけあい、時にはお茶を頂いたり、お誘いしたりしている。地元の活動には職員の勤務時間内ではあるが清掃や、街路樹花壇の世話の参加、また「一戸一灯運動」などへの協力をさせていただいている。	踊り、語り部、音楽などのボランティアの訪問がある。芋煮会やそば会は家族会だけでなく近所の方もお誘いし参加している。街路樹花壇の手入れや清掃など地域の仕事を利用者と一緒にやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	事業所からの報告をすると共に、会議メンバーに意見を伺い、話し合いを行い、サービス向上に活かすよう努めている。	住民代表、地域包括、高齢福祉課、家族代表が委員になっている。2ヶ月に1回定期開催の予定であるが今年度はまだ3回しか開催されていない。	予定通り定期に開催し委員から忌憚りの無い意見を出してもらえよう交流を深めて欲しい。出された意見をケアに活かしその結果を委員に返していくことが運営推進会議を实のものにしていくと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、対応の難しい入居者の方についての相談をきっかけに、市町村担当者との協力ができるようになってきている。	運営推進会議をきっかけに行政との距離が近くなり困難事例について相談し訪問を受け改善につなげるケースがあった。介護相談員の訪問を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人で身体拘束廃止委員会が作られホームの職員も参加している。法人内研修会も行われ全体のものになっている。身体拘束マニュアルも整備されている。玄関は日中施錠されていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方がいない為、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分に理解し納得していただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を気軽に話していただけるよう努めている。また、態度や言動などからも気持ちを察するよう努めている。家族会総会や集まり、面会時にもその都度職員側から家族の意見、要望を聞き、受けた意見、要望は早急に検討し、サービスの向上につなげている。	本人にはその都度、家族には家族会や面会時に意見や要望を聞いている。「入居後の情報記録表」や「申し送りノート」に記録し必要に応じて検討している。受診や服薬を好まない家族の要望が出され利用者が受診せざるを得ないときは家族に必要性を伝えて受診している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎月1回職員会議があり話し合う場を作っている。法人内で管理者会議もあり情報交換や意見交換が行われている。外部の研修会にも参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉法人内の研修、同グループ法人のグループホーム職員事業所内研修が定期的に行われており参加している。また、外部の研修にも出来るだけ多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や、同グループ法人の、グループホーム職員事業所内研修や管理者会議に参加し、意見交換や勉強をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだまだ不十分ではあるが、築く努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	誰でもいつでも気軽に面会にこれるような雰囲気を作っている。家族の協力で外泊したりなじみの床屋に出かけたりしている。家族と相談し音楽の教師をやっていた利用者がシンフォニックコンサートに出かけ教え子や同僚に再会し喜んでもらった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方がいなかったため、していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	心がけている。	家族や本人から得た情報や気付きはその都度「入居後の情報記録」や「ケース記録」に書き込み職員が全員目を通し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	その日のリーダーが計画実施表を記録し毎月の定例会でカンファレンスを行う。3ヶ月に1回担当がモニタリングし計画作成担当者がそれを元に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がよく分かるような言動等を詳しく記録し、個別記録をもとに職員間で情報交換し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医や、本人及び家族の希望に応じた病院を受診していただき、連携を図りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入所前のかかりつけ医や家族・本人の希望する病院ですべて職員同行で受診している。その際訪問看護で行っている健康チェックの情報も提示している。受診結果は『最近の様子について』というお便りに書いて毎月1回家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院でき、不都合なく入院前の生活に戻れるよう、病院関係者や家族との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する対応指針を定め、説明している。	「医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針」を法人が作っている。入居時に家族に指針の説明を行い同意を得ている。しかし、職員の間で十分な話し合いはされていない。	指針の内容について職員で話し合い、指針を具体化する場合の手立てや、技術、知識などスキルアップにむけて検討して欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救命救急講習を定期的に受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難訓練は行っている。避難場所、避難経路については地域の方々と話し合っている。	日中の避難訓練、消火訓練は行っている。ホーム内だけの訓練で消防署や近所への知らせも参加もない。	夜間想定も含めて消防署参加の元訓練をして欲しい。その際近所の協力ももらえるようお知らせをし参加を促して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応するよう努めている。	個人の記録や名前が外部の人の目に触れないよう配慮している。プライバシーを損ねるような利用者への言葉かけは見られなかった。利用者の性格や個性に気遣いながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけるよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活していただけるよう心がけているが、職員の都合を優先してしまう場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	支援に努めている。	調理や盛り付け、配膳、後片付けなど自然に利用者と一緒にやっていた。職員は利用者と一緒に食卓を囲みさりげない見守りをしていた。外食や特別な日の取り寄せなどの楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日一回(夕食後)は必ず行い、毎食後のケアをしている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣に合わせ、排泄の失敗がなくなるよう必要な方には声をかけたり、トイレに誘ったりしている。	自立している利用者が多くさりげない見守り支援をしている。排便や変化のある排泄については記録している。自立を促すために居室でポータブルトイレ使用の利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	対応できる時間帯は決まってしまうが、一人一人の希望、好みの時間、回数などにあわせて対応している。	毎日午後入浴支援はしているが全利用者が入浴できる体制は組めないで一日おきの午後の入浴になってしまう。	入居前の入浴習慣を把握した上で、誰もが入居前の入浴習慣を維持できるよう体制の見直しをして欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて支援している。夜、眠れない方には温かい牛乳を飲んでいただいたりなどをして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院を受診した時の記録のファイルに、処方されている薬の説明書もファイルし、全職員への申し送りを徹底し努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援に努めている。	食材や手芸用品など必要に応じて買い物に出かけている。外食や散歩、紅葉狩や初市を見に出かけている。利用者によっては家族がなじみの床屋に連れて行ったり自宅に連れて行ったりで家族の支援で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の希望がある方には、小額ではあるが管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたときにはすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。	食堂と炬燵のある畳敷きの居間は軽く区切りがあり、利用者が思い思いに過ごせる空間になっている。季節の飾りつけもなされ温度や光も適度で異臭もなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂の間に仕切りがあり、空間が区切られている為、自由に思い思いの場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその	自分の部屋として居心地よく過ごして頂けるよう、家で使用していた椅子、置物、家族の写真などを持っていただき飾っている。	使い慣れたタンスや椅子、キーボードなど持ち込まれている。家族の写真が飾られ植木鉢、ぬいぐるみなどもあり自分の部屋らしくなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、居室内に個別に手すりを設置し、ホーム内はバリアフリーになっている。また、居室の入り口の戸にはネームプレートや飾りをつけ、間違いを防ぐ工夫をしている。		